

報告事項 ( エ )

鳥取大学と鳥取県教育委員会との意見交換会の概要について

鳥取大学と鳥取県教育委員会との意見交換会を開催しましたので、その概要について報告します。

平成26年6月3日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

## 鳥取大学と鳥取県教育委員会との意見交換会の概要について

教育総務課

- 1 日時 平成26年5月13日（火）午後3時～午後5時15分
- 2 場所 白兔会館「飛翔東」の間
- 3 出席者 鳥取大学：学長、理事、副学長 他 計19名  
鳥取県教育委員会：教育長、教育次長、次長  
他 計15名



#### 4 会議の概要（主な発言◇；鳥取大学、●；県教委）

##### （意見交換1）「高大連携について」

- ・県内高等学校生徒の鳥取県への愛着について
- ・鳥取大学における近年の教員免許取得状況及び教員採用試験受験状況について
- ・県内高校生の大学進学率の向上について

上記のテーマで意見交換をした。

◇従来の教員養成は当該校種を対象としていたが、これからは校種間の枠を超えた指導をできる教員の養成が必要。さらに、保護者、あるいは生涯を通じた教育が重要となってくるため、保護者、家庭教育を考える教育にも取り組んでいる。

●スクラム教育で小中高と連携した事業を進めており、鳥取大学のそういった取り組みはありがたい。さらに、いじめ等様々な問題も進めていただけるとありがたい。

●現在子供たちの特性が非常に難しく、その原因が、しつけ、家庭環境、発達障がい等どれなのか、ベテラン教員も判断が難しい。これら社会の問題を考えると、生涯教育、人間力をしっかり考えるといった一環した将来計画にたった教育を考えたい。

◇現在教員養成の世界は、生涯にわたって学び続ける教員の養成を考えている。広く学齢期だけでなく、生涯を通じた人間発達という立場からの学習能力形成というのも考えてきたい。

◇鳥取県高校生の大学等への進学率が芳しくないということについて、経済的理由というの大きいのであれば、財政的支援を検討する余地があるのではないかと。県と大学でタイアップできないか。

◇現時点で入学料免除、学費免除等、還元等はしているが、鳥取県に限ってというのではない。そうしたことが可能であればそういうのもあるとは思う。

●鳥取県高校生の進学率、特に私立大学への進学率は全国平均より低い、決して学力が劣っているわけではなく、むしろ高いと把握している。

##### （意見交換2）「グローバル化に対する取り組みについて」

- ・鳥取大学、県教委のグローバル教育に関する取り組み等について意見交換。

◇付属学校では、教育課程の面では、小中連携の中での英語教育、外国語教育の取り組みを考えている。小学校と中学校の教育課程をきちんと繋げていきたい。国際交流の面では、小学校は韓国と、中学校はスペインと交流している。小学校はホームステイ等対面交流をしているが、中学校は文通中心。今年度は中学校もネット等を利用した対面交流を考えたい。

●スクラム教育の一環として、境港の英語教育モデル地域で、小中高連携した取り組みを行っている。さらに、鳥取東高、倉吉東高、米子東高も中高連携を進めている。

他には、英語教育強化地域拠点事業という国の事業への申請が通り、若桜学園小学校、中学校、八頭高校で、地域が一体となり英語教育の強化に取り組んでいる。また鳥取市教育委員会も独自の事業を進めており、県と市で連携しようという話をした。これからも市町村、鳥取大学と連携して進めていきたい。

